

集会案内

日曜日

礼拝 : 2:00pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyokai.org

榊原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714)527-1456

Eメール:sugimura1950@gmail.com

◎石叫 ■

「疎開列車の中の親切」

太平洋戦争の最中、大阪の天王寺駅発で伊勢に向かう紀勢線の列車の中は、米軍の爆撃を避けて疎開する家族、大きなリュックを背負いヤミ米の買い出しする人たちなどで混み合い、デツキも鈴なりの状態だった。紀勢線は山が多く、トンネルも多い。列車がトンネルに入るたびに窓からは風と共に真っ黒なすすが吹き込んでくる。そんな列車の中で、モンペ姿の女性が2、3歳の女の子をシヨールで包んで膝に抱き、トンネルに入るたびにハンカチで子どもの顔を覆いながら寒さに耐えていた。その時、母娘の近くの通路に立っていた学生が、着ていた学生服を脱いで女兒の上に掛けてくれた。一瞬驚いた母親が見上げる時、「僕は大丈夫ですから」と笑顔でうなずいた。思いがけず出会った見も知らぬ学生の親切に、母親の眼に涙があふれ、「ありがとうございます」と思わず学生を拝んでいた。その女性は私を連れて故郷に疎開する七十七年前の私の母親だった。「あの時は学生さんが神様のように見えたよ。あの混雑の中で、名前も聞かずに別れたけれど、いつもどうぞ徴兵されずに元気で終戦を迎えて下さいつて祈っていたのよ」。生前、母は戦時中の話になると、涙を浮かべながら何度もその話をしてくれた。今、テレビに戦禍のウクライナを逃れ、子どもや老人を連れて隣国ポーランドに向かう人々の群れを見ながら、その恐怖や苦しみを、自分のこととして受け止めている。〔羅府新報〕二〇二二年四月二日付

聖書に「良きサマリヤ人」(ルカ一〇章)という譬え話がある。ある人が強盗に遭い半殺しになっていた。そこをサマリヤ人が通りかかった。彼は気の毒に思い、傷口にぶどう酒を塗り、家畜に乗せて宿屋で介抱し、宿の費用も全て請け負った。あなたの助けを必要としている人があなたの隣人であり、あなたもサマリヤ人のようにせよという主イエスの教えである。実は、倒れている人は罪にまみれて死を待つしかなかった私たちの姿でもある。その私たちを憐れみ、ご自身の命を十字架の上に投げうち、学生服ならぬご自身の聖さと愛で包んで下さったお方が主イエス・キリストである。主は今もなお、その包み込む愛で恐怖や苦しみに震えるあなたを温めて下さる。願わくば、戦禍にさらされているウクライナの人々が主の愛で温かく包まれるようにと切に祈る日々である。

Rev. Tsukasa Sugimura

「私達の教会の歩み」

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。現在は、榊原宣行牧師の監督のもと、杉村宰牧師と啓子師をはじめ、田畑彰牧師、ジェームス・パーク牧師、佐藤裕士兄と、信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをし、月一回の家庭集会を開いております。

「ミッション・ステートメント」

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令(マタイ28:18-20)に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。